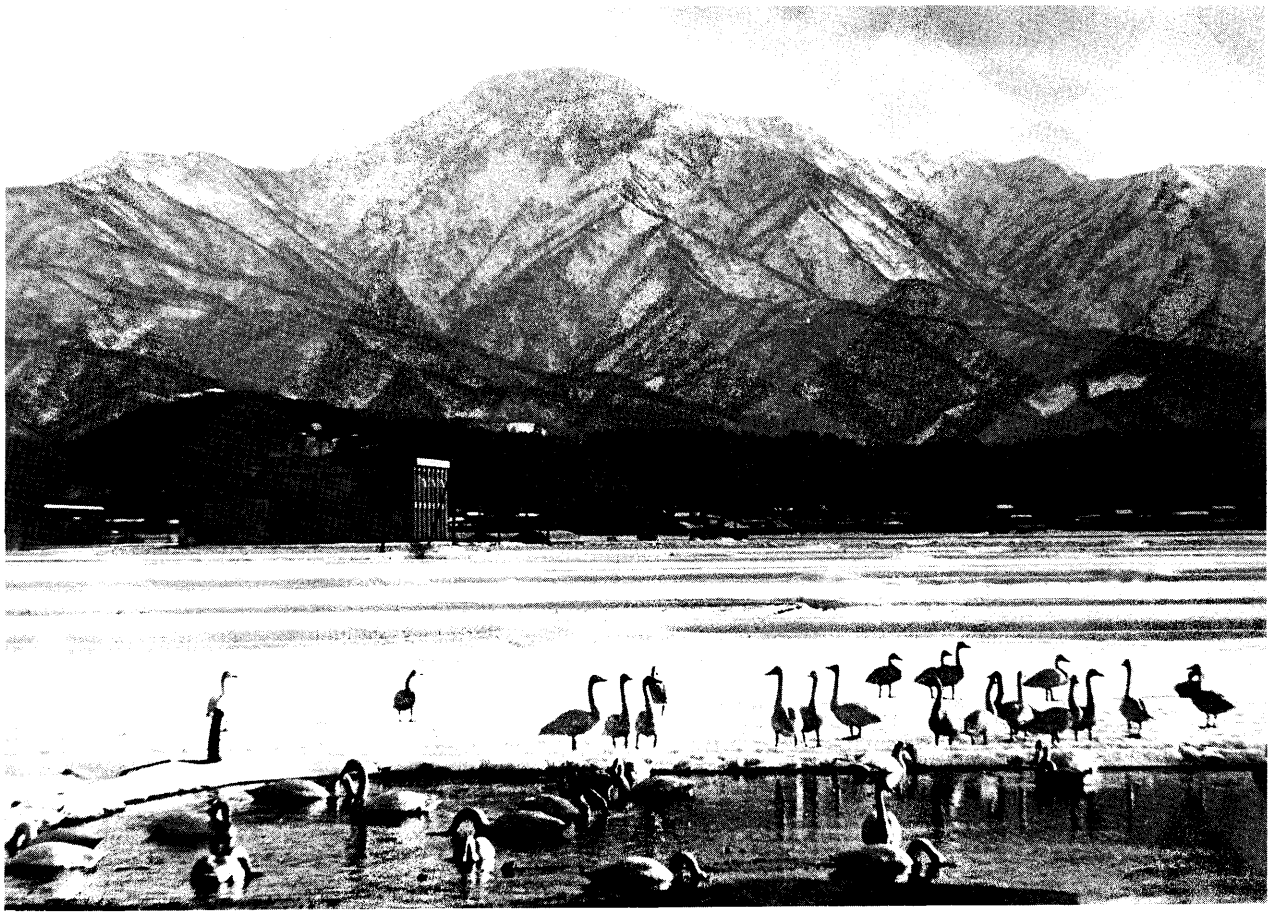
臥龍が丘は緑なり

松高同窓会東京支部会報

平成９年（1997）新春号



新潟県立村松高等学校同窓会東京支部　No. 22

ごあいさつ

年頭にあたって

東京支部長　佐伯　益一

支部会報新春号第22号をお届けするに当り謹んで新年の御祝詞を申し述べます。旧年中、同窓各位より賜りましたご支援、ご協力に厚く感謝申しあげ、本年も又宜しくとお願い申しあげます。

旧年中における社会全般の動きや同窓会の動きについては編集後記及び本文中に細かく記述されているので、ここでは触れないが、先の支部大会に於いて役員全員が留任、以後新たな決意をもって東京支部の発展維持のため、全力で取り組んでいることをまずお伝えしておきたい。只、残念な事は支部幹事として長年指導的立場で運営に貢献されてきた堀哲二さん（旧中24）が急逝されたことは誠に痛恨の極みであり、今はひたすら霊安かれとご冥福を祈るのみである。

さて、東京支部においては8年度会費納入会員は現在約260名、未納入は約120名、併せて400名近くの方が登録されているが、新会員が僅かながら増加の傾向にあるのは喜ばしい事、然し在京同窓生の数からみれば微々たる数、若い方々が一人でも多く仲間として参加されるよう期待し、勧誘にも御助勢願いたいと思っている。村松高校が同窓の絆を強め、和を図り、大きな輪を作り更に巨大な環となることを念願している。

平成9年は“丁丑（ひのとうし）”の年、即ち牛年である。牛は生来性質が柔和で忍耐力は強いが一旦怒り出すと止まらないと言う。生きて労働力や栄養源を提供し死して又人類に貢献する。まして無理やり牛を怒らせての闘牛などとはもっての外と考える。因みに今年は私の干支の年、少しでも牛の功徳にあやかり歩みは遅くとも、残された人生、少しでも世間さまのため働きたいと心がけている。

最後に与えられた紙面にまだ若干の余裕があるようなので同窓会とは関係ないが、もうひとつ私見を書き加える事をお許し願いたい。。生意気な事を言うようだが「歴史は現在から過去に朔りつつ学ぶべきである」というのが私の持論。現状をよく認識し昨年はどうであったか、また一昨年は？と考えていくと歴史が分かり易くなる。何十年、何百年前の出来事を今日現在から糸をたぐっていけば、日本、世界、あるいは人物史、動物史、地学などがよく理解できる筈というのが私の主張である。いきなり神武天皇が、とか今次戦争がどうのと教えるのは教えられる側にとって只暗記するだけの事であって真の歴史学ではないと思う。くどいようだが日本の今日の繁栄は何に起因しているのか、なぜ戦争に負けたのか、然からばなぜ戦争が始まったのかと追求していくことが必要と考える。

来年度から使われる中学校社会科教科書に旧日本軍の罪科がとりあげられているという。巷間多くの批判が出ているが、政治・行政面に何らこれに対応する姿勢が見えていないのは如何なる事か。11月22日、サンケイ新聞に載った小杉隆文相の発言は正に驚く外はない。「専門家が議論した上で記述することになったと認識しており、これを一方的に削除するのは問題と思う。慎重な審議を経た結論は尊重しなければならない。」と教えられるのは義務教育課程の中学生である。将来に禍根を残す憂いなしとしない。改訂するのは今の内、もう時間がないのである。歴史を学ぶのに認識とかがふた通りも三通りもある筈がないと思うし、最近あまりにも虚構や捏造が多すぎる。戦後マッカーサー司令部主導による教育行政の欠陥が今、現れているような気がしてならない。わが母校に於いても前述したような事柄がどのようにして扱われ、また教えられているのか一度訊ねてみたいものと思っている昨今である。乞以心伝心。

又々最後になったが同窓各位の本年の益々のご活躍、ご健在をお祈り申しあげ擱筆する。

☆　　☆

（表紙写真について）

―白山と白鳥―

撮影　八木　年秋氏（大正8年生、五泉市在住）　県展無鑑査、二科会写真部新潟支部長代理、五泉文化協会副会長、県展及び二科会展で受賞、入賞数回に及ぶ。平成2年10月、写真集「阿賀野川を彩る」を出版されている。

会報NO19の表紙―田植え風景―も氏の作品である。

第39回東京支部大会

第39回東京支部大会は、平成 8年 6月 1日（土）浅草ROX会館・ニューオータニに於いて、午後 2時から開催されました。

快晴に恵まれたこの日、村松から茂野同窓会長、吉川校長、江口先生、東京鹿瀬会から波田野幹事長、渡部幹事の来賓をお迎えし、会員 103名の出席のもと、大盛会にて終わることができました。

第一部では「平成 7年度の諸報告」につづき「支部役員の任期満了の件」が議題となり、亀嶋赤山会会長が大会出席会員に諮り、幹事会から推薦のあった佐伯氏が次期東京支部長に再任されました。また幹事役員も全員が留任と決定いたしました。

唱歌「ふるさと」を全員で合唱のあと第二部の懇親会に入り、じゃんけんゲーム、北区県人会おけさ会の佐渡おけさ、相川音頭などの華やかな踊りで、お祭りムードは盛り上がり、抽選会で会場は最高潮に達しました。

そして校歌・応援歌では茂野会長が東京支部大会では初めて壇上に上がり、同窓諸氏と一緒になって楽しそうに大きな声で歌っておられたのが印象的でありました。

つづいて佐伯支部長から茂野会長へ記念品「ルーブタイ」が大拍手の中で贈呈され、支部長の三本締、校長先生の万歳三唱のうち、来年の再会を約しながら午後 5時すぎお開きとなりました。

第39回　東京支部大会出席者（敬称略）総数113名

平成8年6月1日（土）浅草ROXニューオータニ

◎旧中の部（16名）

小田　恕哉　横松　宏平　二平　晶　亀嶋　謙
芳原　英男　武藤　三郎　西山　荘平　佐伯　益一
瀬倉　久男　五十嵐一郎　佐藤　豊夫　伊藤　勇五
斎藤　和男　芳賀　健一　加藤三代太　関　八十一

◎旧女学校の部（5名）

岡本　和子　鈴木　節子　佐藤　玲子　小林　早月
一氏　愛子、

◎高校男子の部（54名）

篠川　恒夫　青木　猛　杵渕　政海　松田　茂夫
今井　正　関　孝世　渡辺　八郎　伊藤　勤吾
鈴木多喜男　鈴木　健司　大島惣四郎　下野　文幹
弦巻　等　坂上　卓夫　新井　康夫　雲村　俊慥
佐久間英輔　五十嵐　健　畔田　昭義　沢出　赳允
塚田　勝　佐藤　匡秀　山崎　輝雄　鈴木　輝雄
松尾　正春　関　和世　吉井　清　石本　芳雄
石黒　四郎　阿部　敏　斎藤　収二　稲毛　越郎
澤出　晃夫　石本　良郎　斎藤　三郎　熊倉　富次
関谷　雄二　中川　四郎　米山　正祠　鶴巻　浩
大橋　貞夫　宮沢　正由　近藤　尚志　今井　孝宏
田代　信雄　今井　英雄　笠原　久　近藤　洋輝
武藤　正昭　松井　清平　青木　敏和　笠原　静夫
岩野　哲憲　三室　茂和

◎高校女子の部（28名）

佐々木恵美　向山　律子　高浜つる子　深見　洋子
木村　孝子　山西愈佐子　片柳　ムツ　岡部　ユキ
波多ミサエ　緒形美恵子　星野　清子　福田ジュン
高橋　カツ　宮腰　ヨイ　升本　久子　大竹　和子
高瀬　笑子　正木芙美子　飯利　幸　真水　道子
小島　典子　山下由紀子　井関アキ子　佐藤　和子
中島　和子　渡辺　厚子　徳永　道子　田渕みやの

◎来賓の部（10名）

同窓会長　茂野　敏郎　様（中17）
高等学校長　吉川　益男　様
同窓会担当教諭　江口　昇　様（高 3）
東京鹿瀬会幹事長　波田野亮一　様
東京鹿瀬会幹事　渡部　広次　様
北区新潟県人会おけさ会　佐藤ミツエ（他 5名）様

(1)抽選会・景品寄付（30名）

武藤　三郎　伊藤　勇五　佐久間英輔　佐伯　益一
小田　恕哉　斎藤　和男　加藤三代太　田代　信雄
青木　猛　関　孝世　渡辺　八郎　鈴木　健司
鶴巻　浩　沢出　赳允　関谷　雄二　塚田　勝
山崎　輝雄　二平　晶　大橋　貞夫　小島　典子
小沢　幸子　渡辺　厚子　中島　和子　鈴木　節子
佐藤　玲子　小林　早月　岡本　和子　真水　道子
木村　孝子　山西愈佐子

(2)東京鹿瀬会　波田野亮一　様
〃　渡部　広次　様

（3）ジャンケンゲーム優勝者３名の方へ「佐伯賞」を佐伯支部長より贈呈

☆尚、当日混雑のため景品受付名簿に記載もれの場合は悪しからずご諒承下さい。

第39回　東京支部大会収支決算書　（単位:円）

平成8年6月1日（於、浅草ROXニューオータニ）

収入の部			支出の部		
大会会費		964,000	通信費・準備会費		62,590
男子70名　@10,000	700,000		印刷費		5,635
女子33名　@ 8,000	264,000		大会費		795,036
			会場費	630,000	
祝儀		50,000	持込酒代	41,813	
同窓会本部　殿	30,000		記念品代	63,460	
波田野亮一　様	10,000		来賓土産代	12,875	
渡部　広次　様	10,000		謝礼（ 2件）	40,000	
			雑費	6,888	
小　計		1,014,000	小　計		863,261
支部一般会計より支出		0	支部一般会計へ繰入		150,739
合　計		1,014,000	合　計		1,014,000

ありがとうございました（敬称略）

①平成8年度会費納入の皆さん

◎旧中の部（61名）

相田和平、相田幸四郎、相田忠亮、伊藤勇五、伊藤秀男
伊藤達郎、板垣文平、片桐賢太郎、市川薫平、岡村嘉志
五十嵐一郎、伊藤勤吾、落合常雄、小見　勇、加藤　豊
亀嶋　謙、熊倉　悟、加藤三代太、北沢卓夫、小田恕哉
小島哲衛、小柳　実、佐久間精一、斎藤和男、斎藤朝之
笠原健二郎、佐伯益一、佐藤豊夫、関谷捨蔵、関山健芳
斎藤誠七郎、高久貞夫、団　順一、寺田徳和、寺田徳隣
西山荘平、二平　晶、芳賀健一、福原平八郎、小島真一
藤原良造、堀　哲二、松田長四郎、丸山一夫、水尾広吉
宮　健三、武藤三郎、　山口三郎、矢部五郎、芳原英男
吉田正平、横松宏平、　渡辺文男、渡辺方夫、宮本　昇
佐野善吾、瀬倉久男、　関八十一、坂井太郎、奈良泰夫
成海正弘、

◎高校男子の部（116名）

青木　猛、　青木敏和、新井康夫、浅井昭男、阿部　敏
五十嵐　健、石黒四郎、伊藤　馥、石本芳雄、石本良郎
今井英雄、今井　正、今井孝宏、稲毛越郎、　梅田久次
大島惣四郎、大西範孝、大橋秀雄、大江佳一、大橋貞夫
小笠原一憲、笠原　久、笠原静夫、亀山知明、川合敏男
笠原大四郎、金子鶴男、加藤清治、川村完爾、岸谷　武
杵渕政海、　木村時也、倉田健五、熊倉富次、熊倉芳夫
雲村俊慥、剣持常泰、小日山芳栄、小林末吉、近藤尚志
近藤英洋、近藤洋輝、近藤毅夫、篠川恒夫、佐々木秀三
佐々木秀和、笹崎勇三、佐藤匡秀、坂上卓夫、斎藤收二
佐久間英輔、沢出赳允、沢出晃夫、澤井　昭、酒井俊昭
斎藤三郎、　斎藤慶五、佐藤良平、佐藤　赳、下野文幹
鈴木多喜男、新保　優、鈴木忠雄、鈴木健司、鈴木輝雄
杉山　喬、　関　孝世、関　和世、関谷雄二、関塚　豪
高岡雄三、　高地一郎、高地　彰、高橋研治、高山幹雄
田代信雄、　塚田　勝、土田　猛、鶴巻　浩、鶴巻静夫
鶴巻硫三、　弦巻　等、弦巻一郎、坪谷次郎、中山　健
中川四郎、二宮文三、畔田昭義、　中村雅臣、中川善隆
根本俊夫、広田達衛、堀　直昭、波多野義孝、松尾　貢
松尾　了、松尾政春、松尾保司、　松田茂夫、松井　孝
松井清平、増田訓英、丸山貞次、　宮沢正由、三室茂和
村川恭平、村川五郎、武藤正昭、目黒義二、八木又一郎
梁取正通、山田一男、　山崎輝雄、米山正祠、吉井　清
渡辺八郎、

◎旧高女の部（15名）

石井洋子、一氏愛子、　岡本和子、熊倉芳枝、小林早月
近藤昌子、佐藤玲子、新保清子、鈴木節子、田村ミツエ
中野松葉、藤崎トヨ、堀　和子、丸山セイ子、渡辺ミツ

◎高校女子の部（65名）

阿部ミサ子、荒井るり子、井関アキ子、大橋マツエ
阿部雄子、飯利　幸、市川　俊、大嶋エミ、緒方美恵子
大野靖子、緒方康子、岡部ユキ、大竹和子、片柳ムツ
神田正子、木村孝子、波田ミサエ、熊倉悦子、久我マキ
小島典子、山下由紀子、近藤燦子、斎藤英子、雑賀和子
坂爪圭子、佐久間順子、佐々木恵美、佐野美枝子
斉木明子、佐藤和子、佐藤八重、島田淑子、鈴木則子
田中富子、高橋カツ、高尾桂子、高瀬笑子、高浜づる子
高橋睦子、出口テル、徳永道子、田渕みやの、竹島幸子
瀧澤美恵子、中島和子、中川米子、深見洋子、星野清子
田川百合子、真水道子、升本久子、松本豊子、松本知子
松尾恵子、正木芙美子、向山律子、宮腰ヨイ、宮川陽子
森　睦子、山西愈佐子、山田　良、横溝田鶴、吉井祐江
渡辺厚子、福田ジュン、

以上合計　　２５７名（９月３０日現在）
合計金額　￥７７０．０００円

②平成8年度寄付金納入の皆さん

◎男子の部（45名）　　計　２２３．０００円

50,000円　田中 正紹（安勝寺）
20,000円　亀嶋　謙
10,000円　堀　哲二、伊藤淳一、金子鶴男
7,000円　山崎輝雄、笠原静夫、笠原　久、川合敏男
北沢卓夫、奈良泰夫
5,000円　梅田久次、五十嵐喜作、松尾吉信
3,000円　佐藤豊夫、関山健芳、松田長四郎、吉田忠至
2,000円　伊藤勇五、伊藤秀男、石本良郎、今井英雄
笠原健二郎、倉田健五、小柳　実、雲村俊慥
小日山芳栄、西山荘平、芳原英男、杉山　喬
関谷捨蔵、武藤三郎、武藤正昭、佐々木秀三
沢出赳允、下野文幹、佐藤良平、弦巻一郎
鶴巻静夫、鶴巻硫三、吉井　清、中村雅臣
横松宏平、矢部五郎、梁取正通

◎女子の部（20名）　　計５９，０００円

10,000円　岡部 ユキ
8,000円　中野 松葉
7,000円　瀧澤 美恵子
2,000円　阿部ミサ子、岡本和子、一氏愛子、緒形康子
緒方美恵子、片柳ムツ、木村孝子、小島典子
小林早月、雑賀和子、佐藤玲子、鈴木節子
新保清子、高尾桂子、深見洋子、真水道子
山西愈佐子
11,000円　五十嵐一郎

同窓会本部総会の一日（8月17日）

相変わらず静かなたたずまいの村松へこの8月、また帰ってきた。まず馬場丁の鶴巻斉先生宅へお邪魔する。佐伯支部長ももうお見えで暫し閑談。斉先生が松中時代に憧れていた霜降りの夏服を時代の流れのためか、とうとう着る機会が無かったと語られたお話はなんとなくほほえましく感ぜられ、興味を持ちました。佐伯支部長が学生時代の服装等の変遷を思い出として書いてみたいので是非、先生に絵を描いて欲しいと頼んでおられましたが今からその実現が楽しみです。もっとお二人の対談をお聞きしたかったのですがほど良い時間となり、恒例の本部同窓会に出席するため事務局長の鶴巻さんと三人で城町の“新滝”へ向かいました。

会議では茂野会長さんが会長さんに再任されましたが、今回ちょっと嬉しく思ったのは大学その他の専門校への進学者が大分増えてきた事です。それは伊藤淳一先生が“自分の子供は母校へ”と働きかけた事から始まり、生徒と共に勉強しようと自宅の一部を解放された成果が実った証しと思います。こうなるまでは随分と長い時間を要したようだがご自身が直接行動された事が本当に素晴らしいと思う。“村松万葉”1995年版に「非不能不為也」1996年版に「数学の勉強」と題された文章を載せられているのには心を打たれた。是非一読して下さるようお奨めいたします。

それにしても、この総会への出席者が少ないのはやはり残念に思う。私の同期の出席者は堰さんだけでした。佐伯支部長も挨拶の際、この事について声を大にして触れられていたが、これも何回目だろうかと思う。無理に引っ張り出すことではないが私達のように久しぶりに来る者は、今年は誰が来ているか、誰に逢えるかと期待していることも知ってほしい。今回は佐伯支部長の発言に対しいくらかの反応があったようです。「正論である」「次は一人が一人を連れてくるようにしよう」「早速同期会に呼びかけよう」との具体的な言葉が多く聞かれました。結果はどうか？次回のお楽しみということになりました。

話を変えるが、いま食中毒事件が相次ぐ折柄、“新滝”さんも頭を痛めた事と思うが、多くのご馳走の中で珍しく冷や奴がど～んと出て来た。その豆腐が絶品で何処の豆腐屋のものか知りたいと思った。もう一品はアサツキが味噌の上に乗っている素朴なものだがその味噌が本当に味噌らしい味噌で佐伯支部長もこのアサツキ味噌がお気に召したようで「残りは全部集めて持ってこい」との厳命で各テーブルからみーんな戴いて支部長に進呈と相成った。

二次会は“木むら”へ否応なく連れていかれたが行けば行ったで又楽しい一刻。そのあと校長先生が“どうしても佐伯さんをもう一軒案内したいのでお連れしてほしい”との事。時間は大分遅かったが、カラオケスナックへ。これではなかなか帰れそうもないと思案していたが堰さんの計らいで一足お先に失礼。静かすぎる深夜の街を独り友人の佐藤さん宅へ無事午前様で辿り着きました。

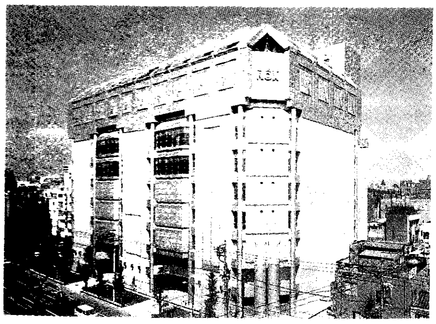
村松のみなさま、ありがとうございました。

（深見洋子・高7回）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

平成９年度東京支部大会開催
のお知らせ

平成９年度（第40回）村松高校同窓会
東京支部大会を
６月７日（土）
午後２時より
浅草ＲＯＸニューオタニで
開催いたします。
お誘い合わせの上　多くの方々のご出席を
お待ち申し上げております。



＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

お便りの中から

先日は、東京支部大会に出席させていただき、誠にありがとうございました。いつもながら盛会にて、おめでとうございました。またこの度は、その折の楽しい写真をご恵送頂き誠に恐縮に存じます。皆様の母校に寄せる熱い思いに感動して帰りました。一層のご発展を念じております。
七月には、同窓生（高校一回生）の小池生夫氏の講演会を開催させて頂くことになりました。素晴らしい先輩のお話しをお聞きして生徒の励みにしたいものと考えております。

村松高校　　校長　吉川　益男

過日は第39回支部大会にお招き頂き、ここ数会続けてお世話になっていますが、年々の盛会、会長さんはじめ幹事の皆様のご苦労が手にとるように分かります。ご苦労様でございました。今回もまた多くの先輩、同期の皆さんにお会いし懐かしく、また会員の皆様の日頃の御活躍に敬意を表します。アトラクションの「ふるさと」唱歌をはじめ佐渡おけさ、相川音頭は東京の地のせいか哀愁があり、更には母校の校歌・応援歌は若返りの秘訣でしょうか。まさに臥龍原頭幾星霜、当時を偲ぶに相応しいものでした。
東京支部の益々のご発展を祈念申しあげます。

村松高校教諭　　江口　昇（高 3）

この度は「臥龍が丘は緑なり」第39回支部大会号のご恵贈、誠にありがとうございました。毎回、編集に工夫を凝らされ魅力ある記事に溢れ、お陰様で一気に読ませていただきました。東京支部の方々が同窓の絆を大切にされる様子が、ありありと思い浮かべられ本当に敬服いたしております。今後一層のご発展を祈念申しあげ御礼とさせていただきます。

村松高校　　前校長　徳橋　時男

先日はご苦労様でした。会場の世話から写真まで大変だったと思います。ありがとうございました。
主賓席に座らされて閉口しましたが、考えてみると私も長老組の年齢になった訳です。また、いぃ年をした老童が少年時代の応援歌をどなっている姿いぃ記念になります。

二平　　晶　（旧中21）

盛会でしたね、そして余興がすばらしかった。楽しく過しました。昨年欠席したので一層強く感じました。

亀嶋　　謙　（旧中22）

同期が誰もおらず残念ではありましたが、それなりに一日楽しく過ごさせていただきました。ありがとうございました。

芳原　英男　（旧中24）

支部会報ありがとうございました。いつもながら広報部の皆様のご努力が偲ばれて、懐かしく拝読しました。とても楽しみにしております。旧中28回卒の斉藤朝之氏の記録名文は得難い読物と感銘しております。
さて、今回は粗文にもかかわらず「松中篭球部」断片をお取計らい下さってありがとうございました。あまり内容のない「メモ」で実は恐縮しております。

山口　三郎　（旧中19）

支部大会の写真をお送りした皆様から、たくさんのお便りを頂き嬉しく存じております。本来なら直接「佐伯支部長のもとに届く筈のお便りであると思いますのに、私が表に出てしまったような気がして申し訳けないように存じております。支部長が言われているように、要は東京支部の皆様と何等かの形で心の琴線が触れ合い、それが次の大会にも繋がってくれたら幸いという思いで一杯です。お恥ずかしい告白になりますが、村松の少年通信兵学校については詳しいことは存じませんでした。
瀬倉久男氏からの情報のようですが、お送りいただいたコピーを読んで感無量の思いでした。撮影に慰霊碑を訪れた時、裏面に刻まれていた渡辺利興会長ってどういう人だろうと思っておりましたが、当時の生徒隊長だったことも知ることができました。「銀雪に鍛う」の一文略史を読んで胸の熱くなるのを感じております。

武藤　三郎　（旧中26）支部常任幹事

先般は久しぶりに先輩始め同窓の諸兄と楽しい時を過ごすことが出来ました。母校はいぃなぁとしみじみ思います。また次回が楽しみで待ち遠しい限りです。次の大会の為に何か新しい企画でもと考えたりしています。
毎回の事ながら写真どうもありがとうございました。以前のものを時々とり出して見ては本当にたくさんお世話になっていたんだなぁと感じている事も、しばしばです。

伊藤　勇五　（旧中33）支部組織委副

いつも同窓会というとお世話をいただき感謝しております。後輩の私がなさねばならぬことを、大先輩の武藤様にやっていただき恐縮しております。さて、美恵子さん（緒形）とのスナップをお願いして撮って頂きありがとうございました。彼女が小学生の時以来五十年ぶりで会い、懐かしさいっぱいでした。

瀬倉　久男　（旧中29）

近くに住んでいながら、友の動静を知らず貴会報から知らせていただくことが度々あります。お礼申しあげます。年令のためか若かった当時が無性に懐かしく、思い出のある仙見や早出の渓流、蛭野のイチョウ、慈光寺など、それに村松公園の桜、五泉のボタン園、小山田の桜などを写真撮影を兼ねて、気の向くまま車をとばしているこの頃です。

南雲　　剛（旧中27）新潟市

支部大会も無事終りましたが、年々旧制の皆様方が少なくなるのが……これも時代の流れでしょうか。

塚田　勝　（高 8）支部幹事

同窓会支部大会では、司会という大役をおおせつかりながら、司会らしい司会も出来ず申し訳けなく思っております。卒業以来はじめてお会い出来た方もおられ、懐かしく写真を何度もみております。来年は今年以上の方々に出席していただきたいと思いますので努力しなければと考えております。

徳永　道子　（高12）　支部幹事

同窓会にははじめての参加でしたが、諸先輩のご活躍と愛校心に圧倒される思いがいたしました。写真を見ながら当日を思い出しております。

岩野　哲憲　（高18）

初めて同窓会に出席させていただきましたが、とても楽しい一日で、また来年も是非出席させていただく予定でおります。友人に声をかけて一人でも多くの方に出席して頂くよう頑張ります。

佐藤　和子（高11）

写真ありがとうございました同窓会のよい記念になります。「人間の交流を図るのが目的」同感であります。同期会は結構集まるのですが、来年の同窓会には一人でも多く参加するよう声をかけます。

新井　康夫（高 5）

会報21号をお送り下され、誠にありがとうございました。グランドピアノの文面は深見様によく直していただいたお陰で、大変すっきりと整っております。いろいろお手数をかけましたが本当にありがとうございました。「月光の秋」の下書きを書いてみたのですが、よく読み返してみると村松中学や村松町の事に一言も触れておりません。これでは一個人のピアノを交えた戦記にすぎない。貴重な会報のページに載せるには不適当であると反省しつつ気が付きました。それで投稿は諦めることにしましたので、どうぞご了解下さるようお願い致します。

斉藤　朝之（旧中28）

支部会報恵送深謝、記事中特に「旧友の死に寄せて」のページでは、万感胸に迫るものがあり昨年の中野兄についで今年は田中兄と訃報に接し、人生の無情と哀感を覚えるこの頃です。隣町におり葬送に参加出来ず慙愧に堪えず、心よりご冥福を祈ります。

渡辺　好雄（旧中27）村松町

「臥龍が丘は緑なり」NO21拝受、何時も貴兄の友情には深謝にたえず。「旧友の死に寄せて」を拝読、亡田中兄を偲ぶ、心中涙雨止まず、昨年の同期会の時のスナップ写真を送り、返礼あり。全文を記す。

「写真いただきました。クラス会の後、入院、検査の連続、体調崩れ、病人のような毎日、もっとも慢性肝臓炎と仲良くしてゆかねばならぬわが身 80 才までもつか疑問です。今日一日、いち日の毎日です。御元気で。

病人とはいえないしっかりした文筆でありました。お互い年輩、体調は自分しか分からず、無理連続は厳禁の事お気配りを。

大江　雅敏（旧中27）亀田町

会報ご恵送賜り感謝申しあげます。皆様からの貴重なメッセージ拝読させていただきました。早速霊前にお供えし報告いたしました。お懐かしい皆様大勢の方々からお見送り賜り故人も満足して極楽浄土へ旅立った事と存じます。あの時は遠路お越しいただいた方々にご挨拶もままならず失礼の段、心よりお詫び申しあげます。何かの折よしなに御伝声いただければ幸いに存じます。

安勝寺　田中　きみ乃　五泉市

東京支部会報ありがたくいただきました。早速佛前に供えさせていただき懐かしい、いろいろな事を読ませていただきました。何時も本当にありがとうございます。時節がらくれぐれもお身体を大切に、一層のご活躍をお祈りいたします。

中野　恭（女23）横浜市

この度の貴支部総会には別な用と重なり残念ながら欠席してしまい申し訳けございませんでした。吉川校長先生のお話によりますと、年々出席者の数も増え盛大に行なわれたとお聞きいたしました。本当に結構でございますね。当本部も負けない様に頑張りたいと思っております。末筆になりましたが当日の資料をたくさんお送り下さいましてありがとうございました。貴支部の益々のご発展をお祈りいたしております。

同窓会本部事務局　伊藤　ヒサ

佐伯支部長、武藤幹事はじめ各幹事への総会出席、会報、写真送付の礼状をたくさん頂きましたのでご紹介しました。また電話もたくさんありました。次の方々からもお便りいただきましたが、同じ内容でしたので本文割愛させていただきました。

お名前の記入も洩れはお許し下さい。本文中、敬称は略させていただきましたのでご了承下さい。

西山　荘平	芳賀　健一	篠川　恒夫
鈴木　健司	木村　貞一	臼井　信栄
田代　信雄	田崎　正一	小島　典子
佐々木恵美	緒形美恵子	中島　和子
渡辺　厚子		（順不同）

松中篭球部OB会の集い

武藤　三郎（旧中26回）

会報21号には、山口三郎氏（旧中19回卒）の寄稿文、「嗚呼栄光の松中籠球部」が掲載されていた。その中に年に 2～3 回ＯＢ会の集いを催していると紹介しておられたが、平成 8年では 2回目となる集いが 9月 3日に行なわれたので、私も仲間に入れていただいた。

このＯＢ会は相当以前から開催されていたようだが私が参加させて貰うようになったのは平成 6年 7月の集いからである。

幹事は何時も山口氏がお引き受けになり、日時、会場等の連絡をして下さるが、集まるのは上野の松坂屋銀サロンが合言葉のようになっている。これは大先輩の渡辺文男氏（旧中12回卒）が松阪屋の副社長として活躍されただけに何かと配慮が行き届きとても居心地がいぃ。

銀サロンは食堂であるが普通の食堂といささか趣が異なり落ち着いた上品な雰囲気がある。しかもかっての偉い方のご来店とあっては気の遣いようも分かるような気がする。広いフロアーを間仕切りして、一般のお客様に気兼ねなくゆっくりした気分で談笑の楽しさを満喫することができる。

輝かしい経歴をお持ちの先輩諸氏の会話を伺っていると眩しさすら感じるが、そこは優しい思いやりのおかげで気楽に時間の過ぎるのも忘れさせてくれる。

会報21号には、出席している方々の写真も掲載されていたが今回もその全員が出席された。少ないメンバーながらもお元気な先輩の皆様と和気あいあいのチームワークを続けて行ける喜びを感じている昨今である。

「新潟県人11月号」の特集について

新潟県人会会報11月号に、魅力いっぱい我がふるさとNO66「村松町」が特集された。平成 8年10月現在、新潟県の市町村数は 112（20市56町36村）であるから、順番としては妥当だと思うがやっと村松に巡り会えた。

この会報は歴史があり昭和32年 1月に第三種郵便物許可をとっている。

村松町は昭和30年に町村合併され、私の頭に描かれている範囲と全く異なるのであるが、大方の地名は理解している。村松公園、住吉神社、城址公園と旧町内には名所は数少ない。11月 2日に佐伯支部長から会報をいただき実地に見聞する機会を得た。11月10日、村松町「安養寺」開山 550回忌式典が同寺で行われ出席した。

村松の名所旧跡で一番に紹介されているのが、白山の北麓に位置する「慈光寺」である。11月10日午後 4時半ごろ車で黄金の里会館へ着いた。すでに薄暗くなり杉木立ちの路を慈光寺へ行く間、帰る人には会ったが寺に着いた時は、既に暗くなり石段周辺を履き清めている寺の人以外、誰にも会わず寂しい感じがした。それが慈光寺らしいところであった。慈光寺の思い出は小学校時代に毎年 4月 8日、甘茶を飲みに遠路走って来たことを覚えている。寺を後に暗くなって歩きずらい細道を、黄金の里会館まで引き返す。この会館は白山や慈光寺に訪れる人たちの憩いの場として、純和風の入母屋づくりで平成 7年春に完成した。一階は各種物産品の販売、喫茶、二階では名物の「そば」が食べられる。日曜日だったので10数人の観光客が楽しそうに大声で話り合っていた。

慈光寺は曹洞宗禅寺として 1,403年に開山された名刹である。四代目住職が 1,450年末寺として安養寺を開山したと式典で沿革説明があり、安養寺開山 550回忌の導師を慈光寺住職・佐藤信雄老師が勤められた。

その他、いろいろな会館が出来たが一度利用してみたいのが「チャレンジランド杉川」。とにかく故郷を離れて半世紀近く経ちました。村松は恵まれた自然を残しながら良い方向に変わってくれる事を期待している。

沢出　赳允（高 6）

同期会

旧中26回同期会

新潟市の東西を結ぶ万代橋は新潟のシンボルとも言われている名橋である。橋の西詰に「うまい、安い、楽しい」を謳い文句にしている老舗旅館、田中ホテルがある

そこが平成 8年 6月22日に同期会が開催された会場である。今回は新潟市在住の荻野、菅原、玉井、野本、長谷川、星の各氏らが幹事として情熱を傾けての企画だっただけに25名が勢揃いする盛会となった。

午後 6時からの開会を前に真面目な顔で記念写真を撮って貰う。しかし待機している新潟美人のコンパニオンを、何時までも待たすわけにはいかないのが人情というものだ。事前に抽選で決められた座席に着くや幹事の挨拶も要領よく纏められ即刻乾杯。宴も徐々に賑やかさが加速して談笑の渦が広がってくる。飲める人もいれば下戸もいるのは当然だが、年に似合う楽しい会話が弾んでいる。中には体調を気遣う人もいて激励する光景もあったが、久しぶりに会えた喜びは異口同音である。

小学校や中学校の同期会には出来る限り出席させて貰ってる私であるが、中には何十年ぶりに再会する人もいて顔と名前がなかなか思い出せなかった体験がある。今回も幹事の荻野氏や十日町から駆けつけた浜田氏のご両人とは、卒業以来ではなかろうかと思うほど久しぶりの再会ではあったが躊躇なく声をかけることができた。それは中学時代の容貌と、殆んど変わってないくらいの若々しさがあった。勿論多少の皺が見えるのは否めないが、生涯青春一筋の姿を見せつけられた思いがあった。

同期の中には若さを維持し続けている人も多いには違いないが、私のように老化現象が急速に進んでる仲間もおり多少の慰めにもなるが、折角この年齢まで頑張って生きて来た人生である。今年は都合がつかず、やむなく欠席した人も何人かはいたが、来年は一人でも多くの友と相見えて、お互いの健康を喜び合いながらの一時が過ごせるよう願っている。来年の幹事は村松在住の森山斉氏が引き受けてくれて、湯沢あたりを検討していると聞いている。東京地区の同期が参加しやすいよう配慮してのことだろうと思われる。宴会が何時に終了したのか確かな記憶もないが、床についたのは午前 0時は過ぎていたと思う。新潟在住の人や一部の人は帰宅したようで、朝食を囲んだのは15人前後だったが、幹事諸氏にいろいろとお世話になってきたことを改めて感謝している。

（武藤　三郎　旧中26回卒）

高校第4回同期会（昭和27年卒）

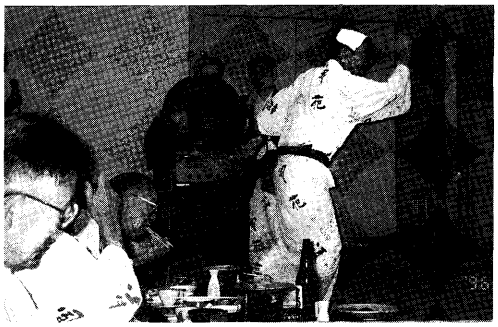
平成８年５月２５日、高校４回卒の同期会を塩沢温泉「シャトーテル一本杉」で４２名出席し、午後６時より開催した。学生時代の思い出に花が咲き、刻の経つのを忘れ暁方まで盃を交わした。当日、有志10人（３組）で石打後楽園カントリークラブに於いてゴルフを楽しんできました。（鈴木多喜男）

旧中27回同期会

昭和17年卒業の旧中学27回生の本年度クラス会が村松在住者の担当によって、9 月24日、月岡温泉“ホテル清風苑”で開催されました。出席者は21名で、足腰が弱くなってきたとの嘆き節は出ましたが、未だ老を感じさせない強者ばかりで例年に劣らぬ賑わいでした。只、残念な事に永年のレギュラーであった、中野、田中両兄の姿が見えなかったことに一抹の寂しさを感じました。

思い出してアルバムを開いて今までのクラス会の写真を見ました。不思議なことに、いつも私が中央に座っています。遠方からの賓客ということか、又は東京支部長を務めているので敬意を表されているのかどうか？
そして隣には必ずといっていぃ程、中野兄か田中兄が座っています。中には両側に居られるのもあります。私を守っていてくれるのかな、と思うとつい胸にこみあげてくるものを感じました。青春期を激動の戦中、戦後を過ごしてきた私達にとってクラス会は得難い貴重な会合です。私達のクラスは子年、丑年生れが多く平成 9年には第 6回目の干支を迎えることになりますが「老而益壮」の精神をもって、いつまでも御健在であれと祈りながらご報告に代えます。因みに次回は新津在住者が当番となります。

佐伯　益一（旧中27）東京支部長



興至れば　こうなる

旧村松高女25回卒クラス会

平成八年十一月六、七の両日、旧村松高女最後の卒業生（25回）のクラス会を関東が幹事となり、静岡県伊豆熱川温泉、カターラ福島屋で恩師藤井ミツ先生をお招きして開催いたしました。

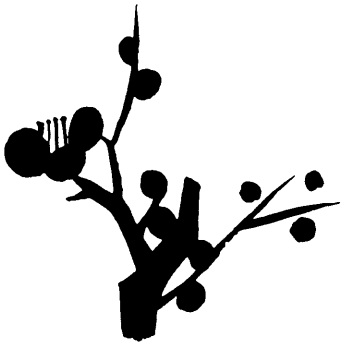
受付は原ヤス子さんで出席者は29名でした。4 時半に記念写真を撮り温泉に寛いだあと、6 時から佐藤玲子さんの司会で懇親会に入り、故村上美和子（旧姓＝荒木）さんに黙祷を捧げ幹事を代表して、私が参加者に感謝のお礼と共に年輪を増す毎に旧友が一人、二人と亡くなってゆくのが寂しい。出席者の皆さんには何時までも健康で幸せであるようにとお願いの挨拶を述べました。藤井先生から心暖まるご挨拶を頂いたあと“秋”“もみじ”等を合唱して少し若返りました。

鈴木節子さんの乾杯音頭で宴は始まり、カラオケで歌い又踊っているうちに二時間はまたたく間もなく経過し話…話……すっかり昔の女学生に戻りました。

小林早月さんの中締めで、二年後の再会を五泉で行なうことを約束し、賑やかで華々しいクラス会を盛況裡に終えることが出来ました。再び湯につかった後は又、話に花が咲き夜の深まるのも知りませんでした。

翌日は伊豆高原、人形の美術館を見学、田口フサエさんの最後の挨拶のあと、14時10分の特急踊り子号で解散いたしました。海の景色、温泉、食事等、最高で参加者の皆様から喜ばれ幹事一同ホッとしている処です。
次回が楽しみです。

岡本　和子（女25）支部常任幹事



戦没少年通信兵の碑

佐伯　益一（旧中27）

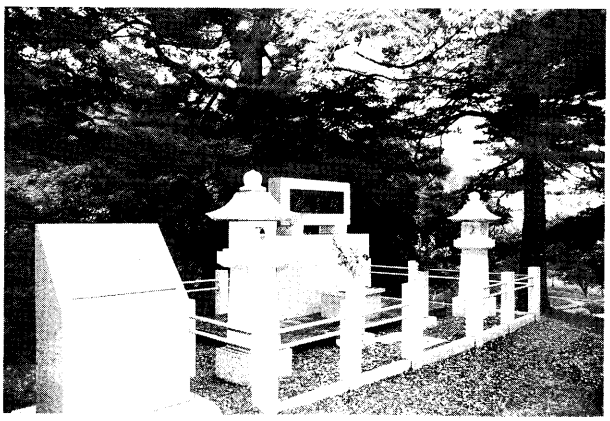
村松公園は愛宕山の中腹に小さな慰霊碑が ひっそりと静かに横たわっているのを御存じだろうか。結論から先に記すと、これは「戦没陸軍少年通信兵の慰霊の碑」である。戦史によれば昭和18年10月 1日に現東村山市にあった陸軍少年通信兵学校を母体とし，東京少年通信兵学校と同時に創設された村松少年通信兵学校が同年10月15日に村松町の旧連隊跡に移転し、同12月 1日第一回の生徒である第十一期生 850名が入隊したことからはじまる。生徒の入隊資格は、中学校二年修了、もしくは小学校高等科卒業程度とあるから年令は14才から15才位であったであろう。修業年限は二年であったが、後に一年三ケ月に短縮されている。東京少年通信兵学校に於いては固定通信、機甲通信、船舶通信、航空通信、特殊情報等の特科教育を実施し、また特別幹部候補生の集合教育も実施されたが、村松に於いてはその何れも行わなかったとあるが、では如何なる教育、訓練が行われたのであろうか。今となっては知るすべもないが、昭和19年 1月 8日の陸軍始めの観兵式に生徒が幼い肩に小銃を担って堂々と銀雪の村松練兵場で閲兵分列行進をしたと記録にあり、また野外戦斗訓練の写真もあることから、おそらくは戦力増強のための戦斗訓練が主ではなかったかと想像される。

昭和19年 6月に第十二期生 800余名が入校してくる。この頃、戦局は一段と急迫し十一期生の内 300余名が特訓を受けて繰上げ卒業となり、19年11月 6日、南方、台湾、比島方面へ配属出陣して行く。（一部は中野学校へ入校）然しながら不運にも赴任途上東支那海五島列島沖及び済州島沖において敵潜水艦（米海軍か？）の魚雷攻撃をうけ、輸送船二隻が沈没、生徒 300名中、 160名水漬く屍と散華した。またこの時難を免れた者は、やがて台湾及び比島に到着したが、その後の苛烈な戦斗に参加しその殆んどが玉砕したという。第十一期生の残部の約 500名は修業年限を一年三ケ月に短縮され、村松で教育課程を修了、 3月 5日に卒業後、内地、樺太、朝鮮、満州及び支那の軍、師団通信隊に配属された。この内樺太及び満州に配属された者は 8月のソ連不法参戦により、やがて抑留、少なからぬ者がシベリヤの凍土に骨を埋めることとなる。

昭和20年 4月 1日に第十三期生 800名が入校、第十二期生とともに本土決戦即応の猛訓練に励むも 8月15日の終戦を迎え、在校生は 8月末日までに帰郷、学校は解散となる。大東亜戦争後半の戦局もっとも過烈な時期に於いて至純敢為、かつ優秀な技術を持った少年通信兵の育成に当たってきた村松少年通信兵学校は開校以来 800名の卒業生を送り出し、1,600 名の在校生徒を擁しながら昭和20年11月26日、永遠にその歴史を閉じることとなった。その後、十一期生の生存者が昭和40年、村松町に於いて涙の再会、また全国少年通信兵連合会の手で昭和45年10月、村松町の好意によりこの地に慰霊碑を建立、第一期以来の戦没者の霊を祀り、毎年慰霊祭を実施しているものである。

※この稿は、かって私が同級会か同窓会の折、この碑を見て以後その由来に強い関心を持っていたものであるが赤山会会合の折、もと防衛庁に勤務しておられた、瀬倉久男氏（旧中29）にお願いし防衛研究所戦史部より送って頂いた資料を参考にし抜粋、または要約して記述した

ものである。写真は武藤三郎氏（旧中26）にお願いいたしました。江口　昇先生（高 3）が車で案内して下さったそうです。お三方及び防衛庁職員の方に厚く御礼申しあげます。



資料収集と散策

10月19日（土）、問題を多くさん抱える東京湾臨海副都心を訪ずれた。平成 7年 4月都知事選挙で臨海副都心開発凍結の方針を掲げた青島さんが、圧倒的な都民の支持を得て都知事に就任された。

10時営団地下鉄有楽町線・新木場駅から臨海高速鉄道の電車に乗る。天候は薄曇りで行楽日和であったが、第三土曜日で子供は学校があり、また混雑を予想して新橋からのコースをとらず、逆コースを選んだので思いのほか電車は空いていた。静かにスタートし走行中も振動なく快適だったが二つ目の国際展示場駅で下車。湾岸道路に沿って走行しているこの線は、最終的に山の手線大崎駅まで延長される計画図が駅に掲示されていた。

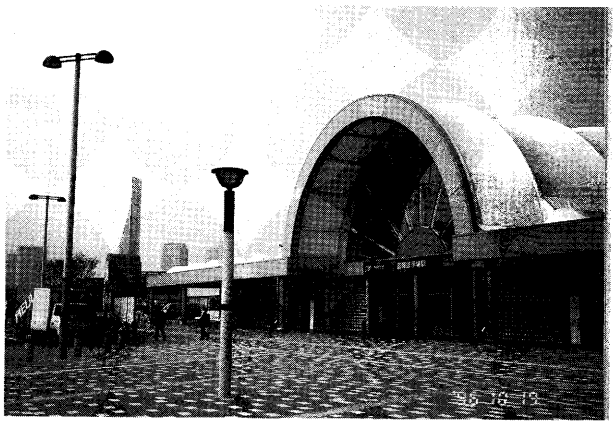
新交通システム「ゆりかもめ」に乗るため有明駅まで 100メートルほど外を歩く。短い距離なのに屋根のないところを歩かされる。雨の日は乗換えが億劫と思う。計画を企てた人達の人柄が表われている構造である。

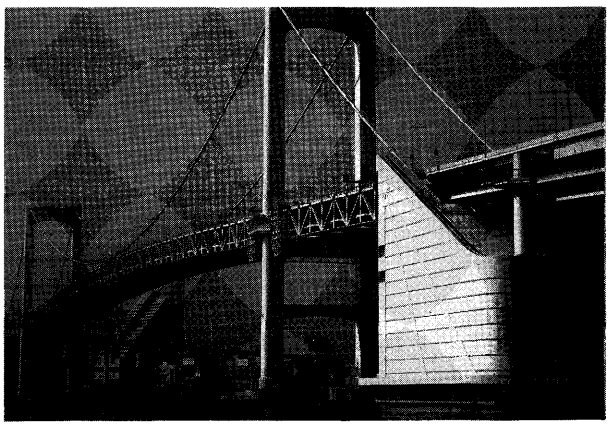
有明駅から「ゆりかもめ」に乗車、丁度全員が席に着ける程度。レインボーブリッジまで直線では 800mと近いが「テレコムセンター、船の科学館、ホテル日航、フジテレビ本社」等の前を通るので「お台場海浜公園駅」まで途中 6ケ所駅がある。各駅で乗降客も多かったが平日は仕事関係でもっと混雑すると思う。各ビルは近代的な建物で冷たい感じはするが綺麗だ。

お台場海浜公園駅前には、何棟かマンションが建ち一階には銀行、郵便局、スーパーなどがある。海辺に沿って遊歩道があり船の科学館まで写真を撮りながら散策。

何処のものか分別つかない土や不燃物で造られた土地のためか、今まで見た事のない草花や樹木等の植物が多く外国にいるような感じだった。かなりモヤがかかって対岸の品川ふ頭、大井ふ頭、東京タワーは写真が撮れる状態ではなかった。遊歩道はゴミや空缶、タバコの吸殻を回収するゴミ箱が相当数配置されていて非常に綺麗で潮風と海の匂いが疲れを感じさせなかった。

船の科学館では南極観測船「宗谷」、青函連絡船「羊蹄丸」がその任務を終え停泊、それぞれ船内を見学することができる。ここの乗船場から対岸の港区「日の出桟橋まで船で渡ることにした。潮風に吹かれながらレインボーブリッジを写真に撮つしたりして25分ほどで桟橋に着いた。すでに 2時を過ぎており貿易センタービル内で食事をしながら雑談 3時解散し、堀　直昭氏（高 8）個展会場の表参道へ向かった。　（広報部）





花すみれ

小林　早月（女25）

村松小学校の真ん前に村松高等女学校はあった。そして小学校に6年間通っていた私の通学路にもあたっていた。そんなある日、小さな興味と憧れの炎が上級生になるにつれ、どんどん大きくなっていった。

女学校の庭に毎年春になると一本だけひときわ美しく濃いピンクの花をつける海棠、テニスコートに弾む白球の小気味良い音、それより何よりラリーを楽しんでいるお姉さん達の白いシャツとブルマー姿の格好良さ、カラタチの生垣に顔を近付け鋭い棘を気にしながら、時を忘れて覗き見をしていたものだ。時々鼻をくすぐる調理実習室からもれてくる良い匂い、弓道場から聞こえてくる的に当たる矢の胸のすく音等々、下級生の礼を鷹揚な会釈で返えす上級生の仕草も、小学生の私には大層格好良く見えた。女学校へ入学したらプリーツの入ったブルマーや制服と共に、憧れていた全ての事が経験出来るという想いが、どんどん広がっていったのだが現実には、太平洋戦争の勃発で日本の国全体が容易ならない方向へと動いていた。

内申書と体力テストだけで入学を許され、万年筆と腕時計を買ってもらい、晴れて女学生になった私には毎日が驚きの連続だった。教科ごとに先生が代わり階段教室や畳敷の教室がある事など、新鮮さと戸惑いの間でゆれる毎日を過ごしていた。そんな中で一番以外だったのはあの憧れのブルマーだった。いざ自分が身に着けてみると思ったより機能的でなく、その上プリーツを何時も美しく保つには、少なからず手間と努力が必要でその事が皮肉にも在学中ずっと私を悩ませた。

入学当時の校長、吉田孫作先生はいつも姿勢正しく毅然としておられ、近寄り難さを感じさせる厳しい方であった。また今思い出しても決して大きくはなかった木造二階建の重厚感のある校舎、その教室のまどから見た四季の移り変わりは、好奇心旺盛な少女を十分楽しませてくれた。当時、女学校の教育方針が「健全なる大和撫子良妻賢母の育成」であったとしたならば、それに相応しい先生方、校舎だったのではないかと思う。そして日本は「撃ちてし止まん」の合い言葉のなか、戦争一色に染っていった。当然私達も授業が受けられなくなり、学徒動員として工場へ通う事が多くなった。工場では木に布を張り銀色の塗料を塗った飛行機の部品と称するものを作らされ、ペンを持つ手に鉋や鋸を持つ日が続いた。

そんな中で出征される先生がおられたり、新しい校長中野二三郎先生が就任されたりで、入学時とはすっかり環境が変わってしまった。私自身も叔父を戦争で失い昭和20年 8月15日、敗戦という結果で終戦の日を迎え私達は傷心のまま校舎に戻った。

新校長の中野先生は怒るととても恐ろしかったが、半面無精髭と笑顔が親しみやすい素敵な先生で山登りの好きな方でもあった。新潟日報の短歌の選者もしておられ私達にも優しく指導して下さった。特に「奥の細道」の授業は面白くて分かりやすく一言一句聞きもらすまいと夢中でノートをとり次の授業が待ち遠しかった。

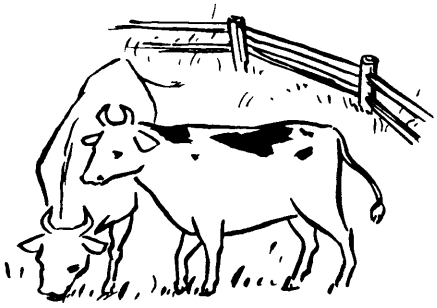
その道のオーソリティーとして著名であられたことを後で知り、そんな方の講義を受けることが出来た事は私の財産であり宝物だと思っている。

先生が新潟市に移られてから二、三度お顔を見に訪れた折、いつもその話になり楽しい一時を過ごさせていただいた。食料や物資の不足がちだった終戦直後の学生生活も出征された先生が復員されたり、楽しい授業があったりで少しづつ落着きを取り戻しつつあった私達に村松の大火で校舎を失うという第二の試練が訪れた。

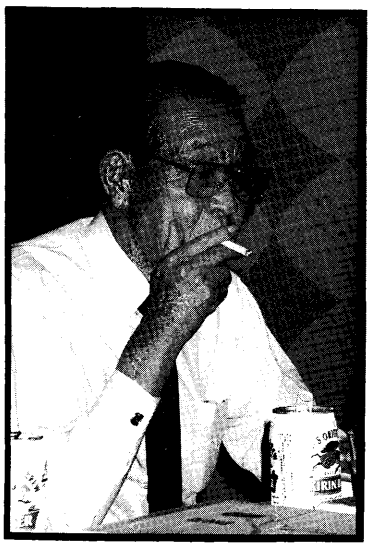
翌日残り火の燻るなか奇跡を念じながら学校へ向かった私を待っていたのは、悪夢のような現実で信じられない光景が広がっていた。校庭に運びだされていたピアノがポツンと淋しそうに灰を被っていて、あの海棠の木はそれと分からないまま焼け棒杭になっていた。

クラスの中でも焼け出された人がかなりいた。旧兵舎が私達の新しい学舎に決まり、授業が受けられるようになったのは、どれ位日数がたってからなのか記憶にないのは、突然の変化に多感な思春期の少女の心がついて行けなかったのかも知れない。

小学生の頃、胸に描いていた憧れの学生生活はあの戦争と校舎の焼失という不幸な出来事ではかない夢で終わってしまった。けれども60才後半になった今、クラスメートと時々集い昔話に華をさかせる時、良い友達と多くの思い出を作ってくれた村松高女はやはり素晴らしい学校であり、この学校の卒業生である事を感謝している。と同時に旧村松高等女学校25回生、高女最後の卒業生であることを誇りにしている。　　おわり



訃　報



東京支部　幹事の堀　哲二さん（中24回）が亡くなりました。

10月12日昼、所用で外出中、不整脈による心臓発作で路上にて昏睡、救急車で病院に運ばれましたが意識不明のまま11月 9日夜 9時30分、死去されました。

通夜および告別式は春日部市の北春日部会館で執り行なわれ、村松からは関谷正中師が来られ導師を務めました。支部からは献花のほか佐伯支部長を始め武藤、岡本、鈴木（多）、沢出、深見、鶴巻、大橋の各幹事が焼香に参りました。

堀さんは支部幹事のほか、赤山会幹事、川崎市北地区新潟県人会会長も長年務められ同窓会やふるさと会などの発展に尽力されて参りました。

ここに謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。　　行年七十六。　　合　掌

『黄綬褒章』おめでとうございます

平成 8年11月12日「多年にわたる建設事業関係の功績」により、沢出　赳允氏（高 6）東京支部常任幹事が黄綬褒章を受章されました。「多年地図…建設省国土地理院刊行…販売に従事するとともに、関係団体の要職にあって斯業の発展に尽力した」との事です。

平成 8年秋の褒章は11月 1日政府から受章者 740名が発表された。内訳は「紫綬褒章27名」「黄綬褒章 302名」「藍綬褒章 411名」で、このうち黄綬褒章は「一つの事業をなしとげ社会に貢献した人」に授与されるもの。

安全煙草

中国で心臓病や気管支炎などに効き目があると言う「体に良い煙草」が作られており、見本を吸ってみると軽い感じで香りも良く煙りも少ない。

中国西北部で発見された原料の煙草の葉は全くの新品種で、反ニコチン物質のほか、いろいろな薬用成分を含んでいるそうだ。この新品種の葉に薬草をブレンドし、特殊加工をし有害物質を減らして作ったのが「中南海」と「長楽」の二種類。薬効については、北京市朝陽赤十字病院で入院患者６００人を対象に１～２ケ月にわたる臨床テストをした結果、心臓病、高血圧などの患者の９６％に有効に作用し、喫煙が原因の気管支炎患者の９３％に治癒効果が見られた、と云う。

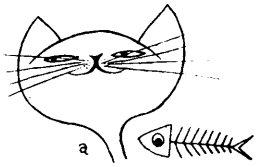
どうしても煙草がやめられない同志諸君、一度試すだけの価値があると思うが如何？。　　大橋 貞夫

堀　　直昭氏（高8回）

絵画個展『夢幻風景』が1996年10月15日～20日まで原宿のギャラリー華音留（かおる）で開かれ 連日多くの方々が会場を訪れ、盛会の裡に終了いたしました。

深見　洋子氏（高7回）

『彫金アクセサリー創作展Ⅳ』（ｸﾞﾙｰﾌﾟ展）が毎年秋に開かれ、今年は 11月 8日～9日に代官山ヒルサイドテラスに於いて開催されました。　同氏の作品の前には大好評の大勢の人だかりができていました。



編集後記

明けましておめでとうございます。
旧年中は御支援御鞭撻を賜り有難うございました。
本年も、よろしくお願い申しあげます。

昨年はアトランタオリンピックで日本選手不振のなか世界の強豪選手を相手に女子マラソンで、有森選手が銅メダルを獲得、日本中拍手喝采をうけました。
新年早々、住専処理に 6,850億円の税金を投入する政府案に国民の 86%が反対しましたが、10月20日の衆議院総選挙の結果、自民党が支持され住専への多額な税金投入と消費税５％案が国民に承認された事になりました。

3月16日、ＪＲ埼京線が恵比寿駅まで延伸され渋谷～池袋間の山手線が微少混雑緩和されました。

4月 1日、三菱銀行と東京銀行が合併し東京三菱銀行が誕生。同日より商法改訂に伴う最低資本金制度が施行され株式会社 1,000万円以上、有限会社 300万円以上に。

4月 1日現在15歳未満の子供数が 1,987万人と初めて 2千万人を割り前年同期より32万人も少なくなり、総人口に占める割合も15.8% で、昭和35年の30.2% のほぼ半数になってしまいました。少子化の影響をうけ平均寿命も男子76.36 歳、女子82.84 歳と僅かながら短命化へ。

7月中旬から病原性大腸菌Ｏ－１５７が堺市を中心に蔓延し、非加熱製剤による薬害エイズ問題とともに厚生省の行政指導が世論の批判を浴びました。

7月中旬、1995年の結婚式費用と葬式費用が発表され外国との金額差が大きく、冠婚葬祭に対する国民の再考を促されました。結婚式費用平均……日本 464万円、アメリカ 158万円、イギリス 151万円。葬式費用平均…日本 405万円、アメリカ44万円、イギリス17万円で日本は業者主導型の結果、多額の費用を使い過ぎているとの事。

8月15日、台風12号が佐渡島から東北地方を横断し関東地方はフェーン現象で気温上昇、東京では38.7度を記録し観測史上二番目の猛暑となりました。
高校野球は松山商業が延長11回、熊本工業を 6-3で破り参加 4,089 校の頂点に立ち、この大会から女子マネージャーもベンチ入りが認められました。

平成 7年度、30日以上登校拒否の小中学生が、82,000人にも達し、学校への行政指導方法で文部省も批判の的になり今後の指導に期待を寄せられています。

携帯電話が異常な程普及し、電磁波により人体へ有害な影響を与えると懸念されております。
9月17日、米大リーグ「ドジャースの野茂投手」が対ロッキーズ戦で、ノーヒットノーランの偉業を達成しました。9 月22日、房総半島をかすめ三陸沖に抜けた台風17号の影響で、水不足だった関東地方に恵みの雨を降らせ東京では観測史上三番目の豪雨となり 260ミリを記録し一気に水不足が解消されました。
10月 4日新宿南口の旧国鉄貨物跡地に、高島屋デパート東急ハンズ、紀伊國屋書店がオープンし大混雑。

町田市立図書館全体で蔵書44万冊のところ、過去 5年間の紛失率は 22%を占めその数は 97,687 冊。図書館のズサンな管理体制が指摘され、ここでも税金の無駄づかいを露呈しました。

異状な人気で10月19日からの日本シリーズも10月24日オリックスが 4勝 1敗で巨人を破り優勝（評論家全敗）

ＪＴが今年 5月調査の結果、たばこを吸う人が過去最低の 35.1%で前年より 1.2% 下がった。喫煙人口は推計男子 2,708万人、女子 714万人だったとの事です。

11月には、厚生省事務次官が多額現金収賄容疑で辞任し、元厚生省課長補佐が逮捕された。
そして地方行政では東京都をはじめ全国で官々接待や職員同志の飲食による接待費の、不正支出を市民団体から指摘され渋々返還を決めた県もあり「官公庁信用失墜」が頂点に達した感のある一年間でした。

11月大阪地方裁判所から住宅専門会社に破産宣告が言いわたされ、バブルの付けが次々と回ってきます。
プロ野球西武、清原選手はフリーエィジェントを宣言し11月24日、史上最高の条件で巨人に移籍しました。

子供の成人病が増加しており成人病を生活習慣病と改める事になり、年齢を問わず病気予防のために悪い習慣がないか、新年のうちにチェックして今年も無病息災を目標に掲げ元気で暮らしたいものです。

昨年11月 1日より、東京支部事務局の住所が
下記に変更になりました。
ＴＥＬ及びＦＡＸは変更ありません。
新住所：〒113 文京区湯島2-31-9 (有)ﾂﾙﾏｷ内
TEL:03-3818-6448　FAX:03-3818-6270

平成9年　1月　第22号
発行人：新潟県立村松高等学校同窓会東京支部　広報部
事務局：〒113　東京都文京区湯島2-30-9　(有)ツルマキ　内
TEL　03-3818-6448　FAX　03-3818-6270
郵便振替　00160-9-26339